

中仏通信教育卒業生の合唱団

避難所で演奏と「語り合う会」



中央仏教学院通信教育部の卒業生で構成する混声合唱団「衆会」が6月20日、原発事故により福島県双葉町の町民が一時避難している埼玉県加須市の旧県立騎西高校を訪問した。団員24人は「名もない今日を」「のんのさま」などの仏教讃歌や懐メロなど約1時間にわたり歌った(写真)。その後、「語り合う会」を開き、町民から大震災の様子や現状などを聞いた。80歳男性らは「帰りたいのがみんなの気持ち」「わが家の素晴らしいところ」などがあれば今後も活動が見えていたのが不安」と心の内を吐露した。80歳女性は「仏教讃歌を初めて聞いたが感動した。音楽が一番身近で癒される」と喜んでいた。

衆会の山尾修平代表は「私たちにできることが聞いた。80歳男性とがあれば今後も活動させていただきたい」と話していた。